



6-1. 豊中キャンパスにおける自然資源の継承と形成

アカマツ、クスギ、コナラを中心とした樹木で各所に森が形成され、待兼山を中心としてよく里山の景観が残されていると言われる。

しかしこれらの多くは維持管理がなされていないため、鬱蒼と茂って底部に光が届かない状態になっている。一方で50周年記念庭園に代表される庭園は大変美しく整備されているものの、鑑賞するための庭園の性格が強くなり、人が中に入ってくつろぐようには作られていない。

また、充分草刈りが行われていない柴原口のような部分もあり、緑地の保全を図ることと同時に、これらの維持管理の段階・性格付けを明確にして、維持管理の効率化と良好な景観形成を、キャンパス全体の中でバランスをとってゆく必要がある。

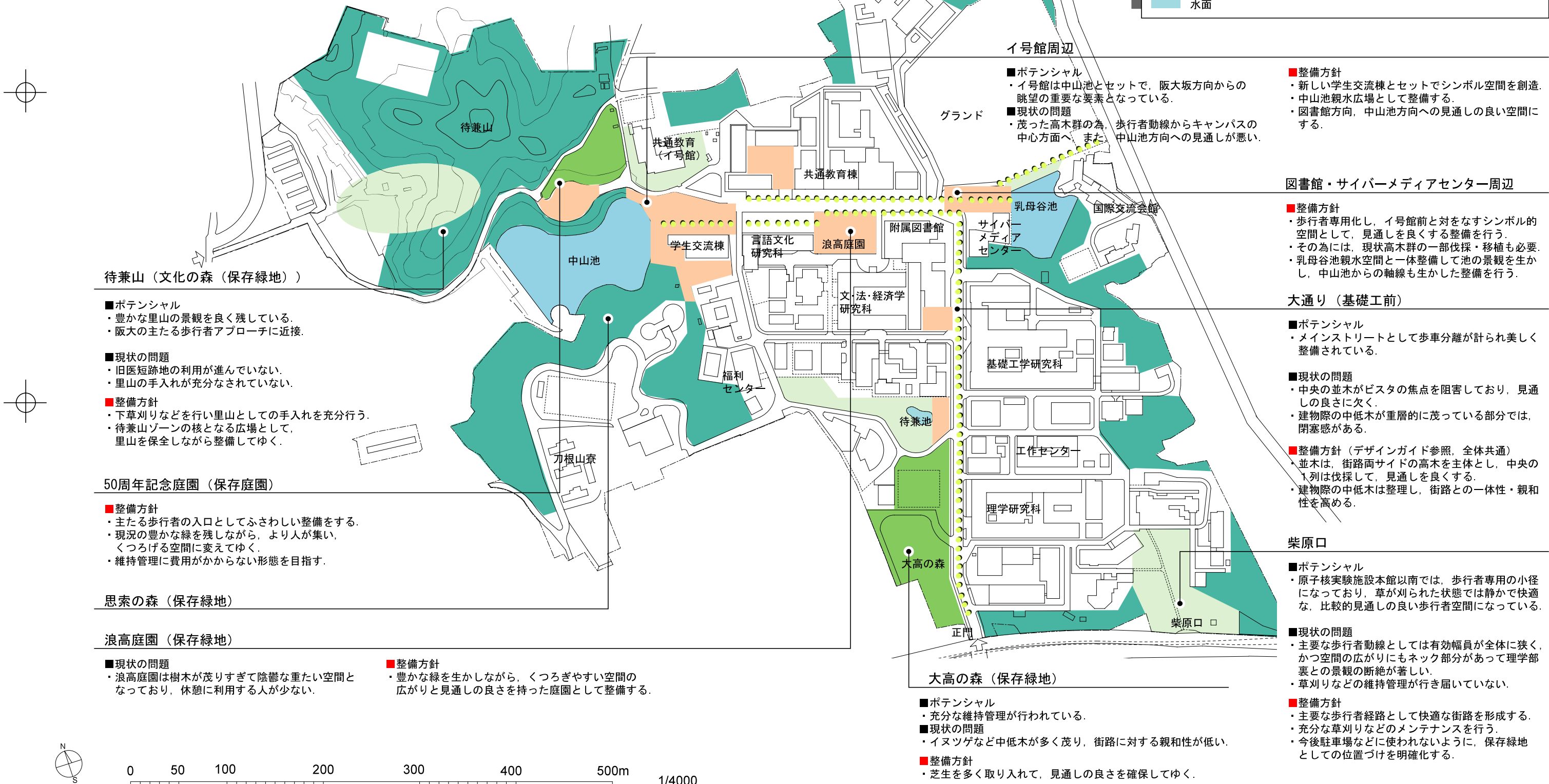
そこで継承すべき自然資源の中で特に緑地部分を、維持管理に着目しながら凡例に挙げた4段階に分けてとらえる。これにより維持管理にかかる費用のバランスを、キャンパス全体で適正化しながら整備してゆくことが期待される。

また中山池・乳母谷池・待兼池は、キャンパスに潤いを与える貴重な要素なので、親水空間としての整備と十分な維持管理を行い、今後の建物建設による埋め立てなどを抑制する。

<注>「芝生」の表現について
本マスタープランでいう「芝生」とは和芝やヘデラ、タマリユウや苔類など、地被植物全般をさす。今後の各部検討にて適宜選択して、見通しの良い、あるいは広がりのある空間・緑化計画を行うものとする。

凡例<緑地のヒエラルキーの考え方>

- 準自然系
 - ・基本的に人の手を入れない、ゴミを取る・茂りすぎた樹木の伐採など最低限の維持管理のみを行う緑地・森。
- 散策系（下草緑地）
 - ・芝生<注>など地被植物を主体とし、維持管理としては草刈りのみを充分に行う緑地。
- 交流系（公園緑地）
 - ・人がくつろぐ事を目的に、芝生・中低木を重点的に維持管理する緑地。今後中低木の割合を減らして地被植物の割合を増やして、より見通しの良い形態を目指す。また軽舗装も適宜取り入れ歩きやすくする。
- 鑑賞系
 - ・鑑賞を目的とする緑地。漸次、交流系への転換を図ってゆく。
- 主要な並木
- 水面



待兼山（文化の森（保存緑地））

- ポテンシャル**
 - ・豊かな里山の景観を良く残している。
 - ・阪大の主たる歩行者アプローチに近接。
- 現状の問題**
 - ・旧医短跡地の利用が進んでいない。
 - ・里山の手入れが充分なされていない。
- 整備方針**
 - ・下草刈りなどを行い里山としての手入れを充分行う。
 - ・待兼山ゾーンの核となる広場として、里山を保全しながら整備してゆく。

50周年記念庭園（保存庭園）

- 整備方針**
 - ・主たる歩行者の入口としてふさわしい整備をする。
 - ・現況の豊かな緑を残しながら、より人が集い、くつろげる空間に変えてゆく。
 - ・維持管理に費用がかからない形態を目指す。

思索の森（保存緑地）

浪高庭園（保存緑地）

- 現状の問題**
 - ・浪高庭園は樹木が茂りすぎて陰鬱な重たい空間となっており、休憩に利用する人が少ない。
- 整備方針**
 - ・豊かな緑を生かしながら、くつろぎやすい空間の広がりで見通しの良さを持った庭園として整備する。

イ号館周辺

- ポテンシャル**
 - ・イ号館は中山池とセットで、阪大坂方向からの眺望の重要な要素となっている。
- 現状の問題**
 - ・茂った高木群の為に、歩行者動線からキャンパスの中心方面へ、また、中山池方向への見通しが悪い。

- 整備方針**
 - ・新しい学生交流棟とセットでシンボル空間を創造。
 - ・中山池親水広場として整備する。
 - ・図書館方向、中山池方向への見通しの良い空間にする。

図書館・サイバーメディアセンター周辺

- 整備方針**
 - ・歩行者専用化し、イ号館前と対をなすシンボリック空間として、見通しを良くする整備を行う。
 - ・その為には、現状高木群の一部伐採・移植も必要。
 - ・乳母谷池親水空間と一体整備して池の景観を生かし、中山池からの軸線も生かした整備を行う。

大通り（基礎工前）

- ポテンシャル**
 - ・メインストリートとして歩車分離が計られ美しく整備されている。
- 現状の問題**
 - ・中央の並木がビスタの焦点を阻害しており、見通しの良さに欠く。
 - ・建物際の中低木が重層的に茂っている部分では、閉塞感がある。
- 整備方針（デザインガイド参照、全体共通）**
 - ・並木は、街路両サイドの高木を主体とし、中央の1列は伐採して、見通しを良くする。
 - ・建物際の中低木は整理し、街路との一体性・親和性を高める。

柴原口

- ポテンシャル**
 - ・原子核実験施設本館以南では、歩行者専用の小径になっており、草が刈られた状態では静かで快適な、比較の見通しの良い歩行者空間になっている。
- 現状の問題**
 - ・主要な歩行者動線としては有効幅員が全体に狭く、かつ空間の広がりにもネック部分があるため理学部裏との景観の断絶が著しい。
 - ・草刈りなどの維持管理が行き届いていない。
- 整備方針**
 - ・主要な歩行者経路として快適な街路を形成する。
 - ・充分な草刈りなどのメンテナンスを行う。
 - ・今後駐車場などに使われないように、保存緑地としての位置づけを明確化する。

大高の森（保存緑地）

- ポテンシャル**
 - ・充分な維持管理が行われている。
- 現状の問題**
 - ・イヌツゲなど中低木が多く茂り、街路に対する親和性が低い。
- 整備方針**
 - ・芝生を多く取り入れて、見通しの良さを確保してゆく。

